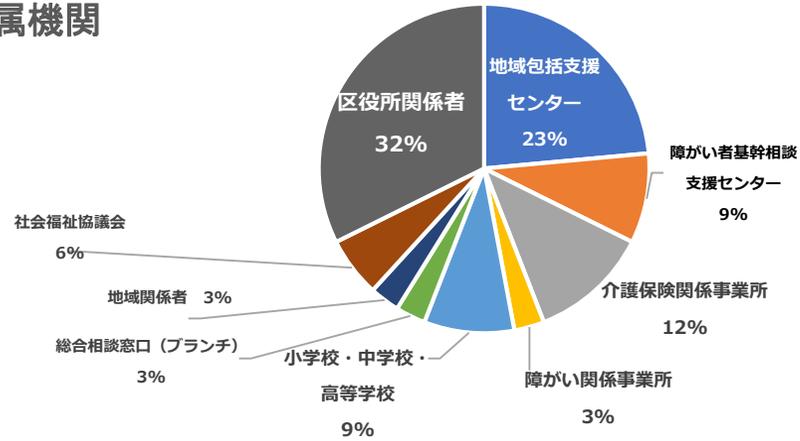


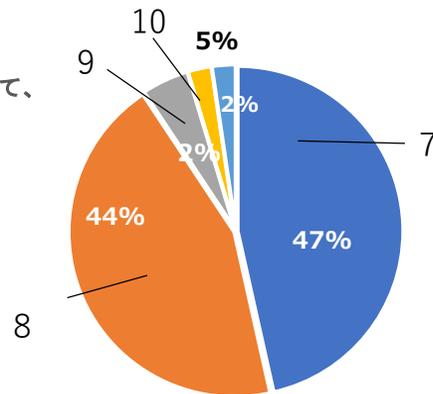
令和2年度 つながる場アンケート 集計表 (34人)

資料6-2

所属機関

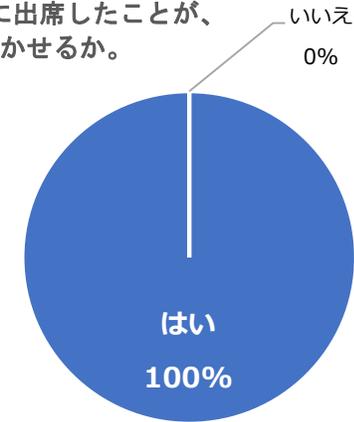


スーパーバイザーからのアドバイスを受けたことによって、

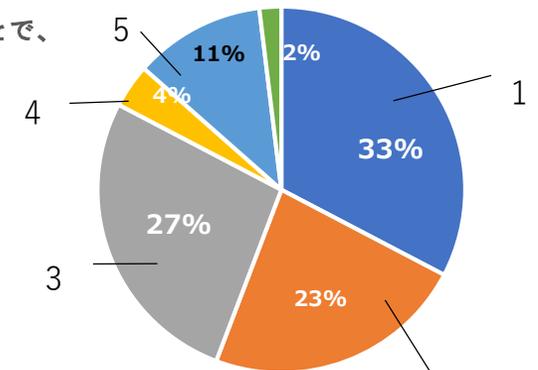


- 7 要援護者(要援護世帯)の抱える問題を、解きほぐすことができた
- 8 他機関の関わり方が明確になった
- 9 地域(見守り活動等)を意識することができるようになった
- 10 支援に自信が持てるようになった
- 11 その他

「問1 「つながる場」に出席したことが、今後の支援に活かせるか。



「問1 はい」の方へ関係者が一堂に会したことで、

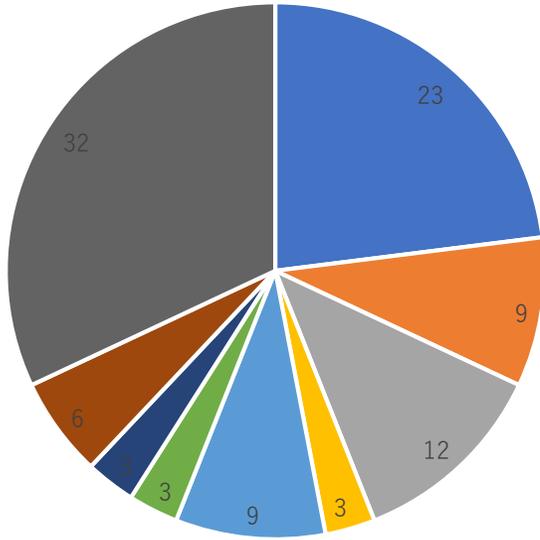


- 1 顔の見える関係づくりができた、もしくは、そのきっかけができた
- 2 要援護者(要援護世帯)の抱える問題を、解きほぐすことができた
- 3 他機関の関わり方が明確になった
- 4 地域(見守り活動等)を意識することができるようになった
- 5 自機関(担当者)で抱えていたケースを関係者と共有することで、気持ちが楽になった
- 6 その他

令和2年度 つながる場アンケート 集計表 (34人)

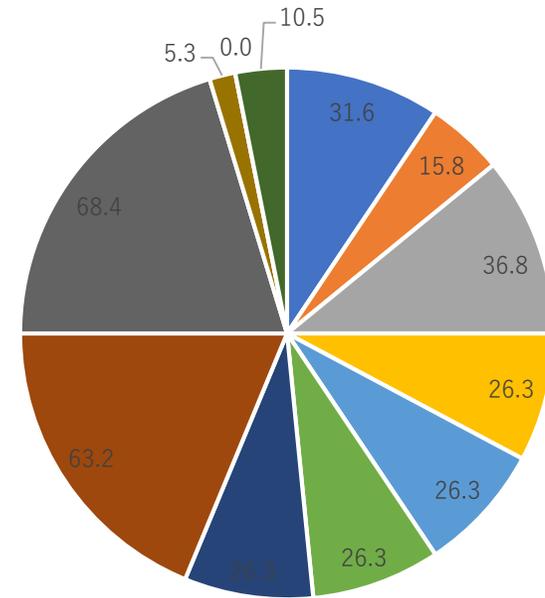
資料6-2

所属機関



- 地域包括支援センター 23%
- 障がい者基幹相談支援センター 9%
- 介護保険関係事業所 12%
- 障がい関係事務所 3%
- 小学校・中学校・高等学校 9%
- 総合相談窓口（ランチ） 3%
- 地域関係者 3%
- 社会福祉協議会 6%
- 区役所関係者 32%

今後、取り組んでいきたいこと



- 1 民生委員や町会長等地域のキーパーソンとの情報交換 31.6%
- 2 地域福祉活動への参加・協力 15.8%
- 3 地域の定例会議への参加 36.8%
- 4 地域主体で実施している福祉に関する学習活動への協力 26.3%
- 5 要援護者に関する地域での見守りの依頼 26.3%
- 6 支援が必要な人の情報を集めるための地域への働きかけ 26.3%
- 7 地域が受けた相談に対する適切な対応・指導 26.3%
- 8 見守り相談室のCSWを通じた地域とのつながりづくり 63.2%
- 9 地域に日常的な見守りを依頼・強化するための具体的な協力体制づくり 68.4%
- 10 その他 5.3%
- 11 特になし 0.0%
- 12 無回答 10.5%